

Y中学校の校長は、高校の同級生であり、昔、同僚でもあったN先生である。この学校には、以前からお世話になっており、この「校長室だより～燦燦～」の熱心な読者でもあるK先生もいる。以前勤務していた高校のすぐ隣の学校でもある。自然と親近感が生まれる。

ソフトテニスの大会があった。会場をウロウロしていると、Y中学校女子ソフトテニス部を見つけた。N校長から、顧問の先生のことは聞いていた。ソフトテニスで専門の方で熱心に指導されているとのことだった。

試合を見た。そこには、私好みの選手たちがいた。応援したくなるチームだった。一目ぼれだった。技術が優れており、試合で勝っていくチームはある。それはそれですばらしいのだが、大事なことは別にある。このようなチームを育てている指導者は、どんな人なのだろうと興味が湧いてきた。会ってみたくなった。

選手たちと話をしていると、顧問のA先生が現れた。怖そうな人なのか、いやそうでもない。しばらく様子を見ていた。試合が終わり、A先生に話しかけた。そこには、選手の前で見せる顔とは違った柔和な表情の若い好青年がいた。N校長のこと、K先生のこと、そして、あなたのチームに一目ぼれをしたことなどを話した。

それ以来、自分の学校以外に、Y中学校のことを気にかけるようになった。ソフトテニスの会場でA先生に会うと、いろいろなことを話すようになった。選手たちも、私のことを覚えてくれたようである。

A先生と一緒に、もう一人若い先生がいた。副顧問のH先生だった。N校長から、初任でY中学校にきた先生であることなどを聞いていた。K先生からは、若い国語の先生がいることを聞いていた。それが、H先生だった。まだ2年目の若い国語の先生であり、ソフトテニス部の副顧問だった。

H先生とも、会うたびに話をするようになった。ただし、ソフトテニスではなく国語の話が中心である。K先生が、私が実践した「パネルディベート」をH先生に紹介してくれた。早速、H先生も授業に取り入れたとのことだった。H先生に、やってみてどうだったのかを聞いてみた。すると、目を輝かせて話し出した。この先生は、伸びる人だと感じた。同じ学校に同じ教科のK先生がいることも大きい。部活動のことは、A先生から学べばよい。そして、彼を温かく見守ってくれる総監督のようなN校長がいる。非常に恵まれている。きっと、H先生だから、このような出会いがあったのだろうと思う。

私が、一目ぼれしたチームは、県新人大会で準優勝となった。個人でも3位に入っている。顧問のA先生は、昨年度から福島県中学女子選抜チームの監督も務めている。私も以前経験があるため、そのやりがいも重い責任もわかるつもりである。加えて、今年度は、中体連の要職も務めている。かなりのハードワークである。そのような状況の中での、県2位である。心から拍手を送りたい。縁が縁を呼ぶY中学校をこれからも応援したい。